

■殺虫剤：農業用

ピレスロイド系

アディオン®フロアブル

登録番号：17852

毒性：－

消防法：－

有効年限：5年

成分 ペルメトリン……10.0%

物理的・化学的性状 類白色水和性粘稠懸濁液体

包装：500ml×20

◆特長

- 適用作物が広く、果樹から花きまで幅広く使用できます。
- 広い殺虫スペクトラムにより、同時発生の害虫類を防除できます。
- 優れた殺虫力と速効性をもっています。
- 優れた残効性と特異な忌避作用（産卵抑制、摂食阻害、寄生阻害など）により作物を害虫から守ります。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペルメトリンを含む 農薬の総使用回数	
大粒種ぶどう	チャノキイロアザミウマ	1,000～ 2,000倍	200～700 g / 10 a	収穫7日前 まで	5回 以内	散布	5回以内	
	コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ	1,500倍						
おうとう	オウトウハマダラミバエ シヨウジョウバエ	2,000倍		収穫前日 まで	2回 以内		2回以内	
もも	モモハモグリガ	1,500～ 2,000倍		収穫前日 まで	6回 以内		6回以内	
	シンクイムシ類 アブラムシ類	1,500倍		収穫前日 まで	2回 以内		2回以内	
すもも	アブラムシ類 シンクイムシ類							
りんご	キンモンホソガ	1,500～ 2,000倍		収穫14日前 まで	2回 以内		4回以内 (散布は 2回以内、 噴射は 2回以内)	
	ケムシ類 アブラムシ類 ハマキムシ類 モモチョッキリゾウムシ シンクイムシ類	1,500倍						
	なし							シンクイムシ類 カメムシ類
	なし							アブラムシ類
くるみ	アメリカシロヒトリ シロテンクロマイコガ	1,500倍	収穫7日前 まで	2回以内				
マルメロ	シンクイムシ類		収穫14日前 まで					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペルメトリンを含む 農薬の総使用回数	
ブルーベリー	オウトウショウジョウバエ	2,000倍	200～700ℓ /	収穫前日 まで	2回 以内	散布	2回以内	
かき	アザミウマ類	1,000～	10a	収穫7日前 まで	5回 以内		5回以内	
	カメムシ類	1,500倍					3回以内	
アスパラガス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1,500倍	100～500ℓ /	収穫前日 まで	3回 以内		3回以内	
きく ばら カーネーション	アブラムシ類		100～300ℓ /	10a	—		6回 以内	6回以内
	宿根かすみそう							
スターチス	ヨトウムシ							
りんどう	リンドウホソハマキ							
	ヒラズハナアザミウマ							
トルコギキョウ	ヒラズハナアザミウマ							
つつじ類	ツツジグンバイ					200～700ℓ /		

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、付近の桑に付着する恐れのある場所では使用しないこと。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③ 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (3) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (4) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。
- (5) ボルドー液と混用する場合は、あらかじめ20倍程度に希釈してから混ぜ、調製後ただちに散布すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

- (4)街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないように注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1)水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意すること。
養殖池周辺での使用は避けること。
- (2)水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3)使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。